

秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第2回会議 中央地区部会（概要）

1 日 時

令和4年7月4日（月） 13：30～16：00

2 場 所

秋田北高等学校 会議室

3 出席者

○秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会委員 9名

○事務局（高校教育課） 7名

4 協 議

委員からの主な意見

- ・大学ではICTの普及等で教え方も変わってきており、ハイフレックス型の授業が出てきている。高校の小規模校でも、ハイフレックス型の授業により教育効果を上げることができるのではないかな。
- ・1学年あたりの人数が減っており、現状を維持していくのが困難な学校も出てきている。ICT技術の活用などにより、統合せずに、できる限り学校を残していくスタイルも可能ではないかな。
- ・進学を中心校は6学級程度を維持するとの記載について、様々な大学入試制度へ対応するためには、相応の教職員がいなければ十分な指導が難しい。6学級が下限ではないかと思う。
- ・進学校を卒業すると県外に出て行く生徒がかなり多い。県外に行っても、将来的に秋田に貢献しようという思いをもってもらえるような教育が必要ではないかな。
- ・現在ある農業高校、工業高校は、様々な魅力的な取り組みを展開し、商品開発やパテントの取得にまで取り組んでいる学校もある。これを維持していただければと思う。
- ・再生可能エネルギー関連産業を意識した人材育成も進めて行く必要がある。それが魅力ある高校づくりの一つの源になると思う。
- ・高校は、地域性や地域の要望を活かして特徴を出す必要がある。教員だけでそれを進めるのはかなり大変だと思うので、魅力ある高校づくりに外部人材を活用しても良いのではないかな。

- 子供たちが社会に出て、自立して社会に貢献していくと考えた場合、少人数の中で高校生活を送るよりも、大人数の中でもまれた方がいろいろな事を吸収できる。
- 中学生にとって、高校の魅力は部活動に大きく左右されるところがある。学級数が少なくなると、特に団体競技において部活動の運営が難しくなっていくため、ある程度の学級数は必要だと思う。
- 学校がなくなればその地域の活気が失われてしまう、というのは本当に切実な問題である。学校は、その地域のシンボルでもある。